

平成26年11月11日

小野市議会議長 様

市民クラブ
岡嶋 正 昭

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成26年11月10日（月）～平成26年11月12日（水）

2 視察メンバー

藤本修造・山中修己・小林千津子・高坂純子・前田光教・山本悟朗・岡嶋正昭
川名善三・竹内修（市民クラブ7名と公明党2名 以上9名）

3 視察先及び調査内容

- (1) 滋賀県東近江市（人口：約11万6千人、面積：388.58Km²）
 - ・指定管理者制度（コミセンまちづくり協議会への）について
- (2) 愛知県小牧市（人口：約15万3千人、面積：62.82Km²）
 - 認知症見守りネットワークについて
- (3) 大阪府箕面市（人口：約13万3千人、面積：47.84Km²）
 - ・全市立小中学校での美味しい給食の実施について
 - ・「子育て応援幼稚園保護者補助金」について
- (4) 兵庫県篠山市（人口：約4万4千人、面積：377.61Km²）
 - ・篠山市の観光行政について

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

人口：約 11 万 6 千人： 面積：388.58 km²

≪視察項目≫

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について



滋賀県東近江市役所前

≪視察内容≫

1) 取組の経緯

合併により効率的な行政運営が可能となったが、市民が自主的に参加し、地域課題を解決し、各地域の個性を生かした町づくりを行うため、各地区で「まちづくり協議会」が組織された。

平成 26 年 4 月 1 日「東近江市協働のまちづくり条例」を施行し、「まちづくり協議会」の位置づけを明確化した。

2) 支援制度

- ・ 交付金・地域活動支援補助金・地域活性化補助金・職員の支援体制

3) まちづくり協議会へ指定管理をお願いするメリット

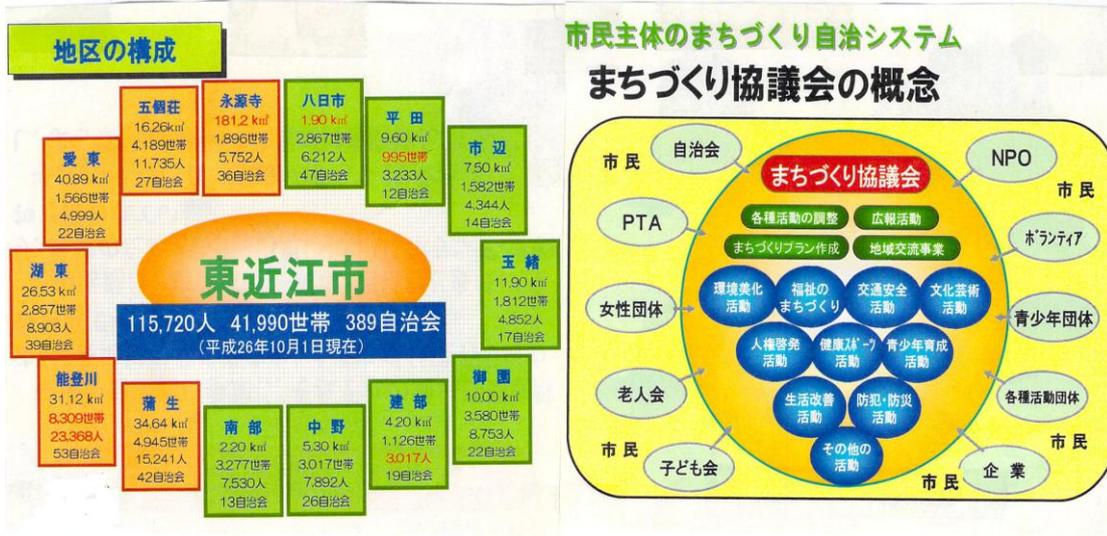
- ・ 地域の施設→愛情を持って管理して貰える
- ・ 施設の予約や利用者との調整。
- ・ 単なる業務委託とは違い、仕様書以上の管理、美化が期待できる
- ・ 利用者からの苦情トラブルの処理
- ・ それぞれの地域らしいコミュニティセンターとなっている

4) まちづくり協議会の課題

- ・ 若年層や女性の参加が少ない
- ・ 高齢化
- ・ 自治会連合会をはじめとした既存団体等との連携
- ・ 認知度の低迷

- ・事務処理の複雑化→実費弁償方式をやめる

※協働課と生涯学習課との2つの窓口に分かれわかりにくく、行政側も連携が取りづら



【所感】

小野市では、地域づくり協議会が発足以来、今年で満十年が経過しました。情報によりますと、東近江市ではこのまちづくり協議会の運営を全て地域の「まちづくり協議会」に完全委任している、とのことでした。

東近江市は何度かの市町村合併により、西は滋賀県、東は愛知県と非常に東西に長い地域である（大きく言えば文化の違いがある。）。又、自治会も389地域と非常に多い。よって行政指導によるまちづくりには非常に難しい様に感じられました。

そこで、地域のおられる元気な高齢者、即ち昔の青年団の方々の登場となったようです。若いころに培った自由な発想による組織づくりや行動により地域の仲間を創り色々な活動により地域での連携を図っていき、元気に過ごせるまちづくりを担う活動していく。しかし、地域によつての活動の差が歴然とあり、非常に活躍されている地域や殆ど行われていない地域があり、これらの事業を進めていく上における課題も山積のようでした。

また、これら元気な高齢者が更に次につなげていく為の後継者創りが各地域における課題の様でもある。

60歳前半から平均寿命の80歳代までの約20年間もの永い時間の過ごし方について、市民自らが考え・行動していく取組について、すばらしい取組みと考えますし、又次のリーダー養成についての更なる取組みについても学べればと思います。

【第2日】

愛知県小牧市

人口：約15万3千人、面積：62.82Km²

≪視察項目≫

認知症見守りネットワークについて



≪視察内容≫

1) 取組の経緯

今後の高齢化の進展により支援を必要とする認知症高齢者の数も増加することが見込まれることから、地或における認知症への理解を深め、地或で支える包括的な支援体制を構築することを目的として、「認知症見守りネットワーク構築事業」を整備することとし。平成22年度に愛知県より委託

を受け、

愛知県小牧市役所

「地域資源活用モデル事業」
として実施した。

2) 具体的な取組みについて

①認知症サポーター養成講座

認知症の正しい理解とその家族を見守る応援者(認知症サポーター)を養成する研修

②キャラバン・メイト養成研修

認知症サポーター養成講座の講師(キャラバ・メイト)を養成する為、介護相談員、介護従事者、地域包括支援センター職員などを対象とした研修

③認知症コーディネーター養成研修

専門的な知識の習得、及び医療、介護などの連携の橋渡し役となる人材を養成する為、医師会、歯科医師会、薬剤師会会員及び居宅介護支援事業所職員等を対象とした研修

④認知症地域資源マップの作成

⑤啓発グッズの作成

認知症に対する理解を深めるため、ステッカーやのぼり旗の作成

⑥徘徊捜索模擬訓練

電話、FAX、メール等を活用、認知症高齢者の行方不明を想定した模擬訓練を実施

⑦認知症見守り隊の養成

徘徊不明案件が発生した場合の捜索・早期発見を支援する目的でサポーターから登録者（事業所）を募集。事案が発生し捜索願いが出された場合は家族の同意の上市内の各地域包括支援センターから登録者（登録事業所）へFAXやメールで徘徊者の情報を提供する。

【所感等】

全国的に大変な課題となってきた「認知症対策」。小牧市においても年々認定者の増加に悩まされているようです。高齢化率も21,61%（今後も、増加する見込み）。これらを受け入れる施設も多く存在するものの解決策ではない。

小牧市では、介護予防事業一次・二次予防事業として「いきいき元気塾、筋力アップの為にトレーニングマシン講習会、からだ元気アップ教室等々」の取組みが行われている。当小野市でも既に“みんなで楽しく！ おの楽らく体操”等々対策への取組みを行っています。これら「認知症」への取組みについては大差はないものと思います。

この度の小牧市における「認知症見守りネットワーク」についてですが、多くの一般の市民の方に、「認知症」に対し、一人でも多く方々が理解し関心を持っていただく、取組みについて非常に関心を持ちました。

家族として中々オープンにしたくない認知症。オープンにすることで多くの“市民”の、多くの“目”でもって市内の認知症患者を見守っていく。大変に有難い取組みです。しかし、市民個々での意識レベルが中々思うようには上がっていないのも現状の様であります。地域の患者さんを、地域で守る。これも失われつつある「地域」の大切な事業なのかと感じた次第です。

【第3日】

大阪府箕面市

人口：約13万3千人、面積：47.84Km²



箕面市役所での研修

《視察項目》

- 全市立小中学校での美味しい給食の実施について
- 「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

《視察内容》

1) 取り組みの経緯

- 全市立小中学校での美味しい給食の実施について

箕面市は地産地消を積極的に取り組み、学校給食に採用することで、行政課題のひとつである農業振興を図っている。

小学校12校、小中一貫校2校、中学校6校あり、平成25年9月より中学校を給食にしたことにより、全校完全給食になった。全て「自校調理方式」で行っている。

- 「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

箕面市は人口が増えている。待機児童が今年度急増し、前年比1.5倍になった。市は「待機児童0プラン」を策定し、平成23年度に保育所を2園増設したが、多様なニーズに対応するため、保育所以外の子育ての選択肢を拡充するに至った。

2) 具体的取り組みについて

- 全市立小中学校での美味しい給食の実施について

- ① アレルギー対策…個別対応を行っており、108項目除去項目ある。(国は9項目となっており、項目削減に取り組んでいる。) 対象者は359人である。
- ② エピペン所持者…対象者は58人で、年々多くなっている。
- ③ 「箕面農業公社」をつくり、若者に遊休農地で野菜をつくらせ、全量給食に使っている。現行地産地消率は16% (目標50%)である。公社はJAとの関わりはない。
- ④ 1人当たり給食単価次のとおり
 - ・小学生低学年 209円/食 3,553円/月

- ・小学生中学年 213円/食 3,621円/月
- ・小学生高学年 216円/食 3,672円/月
- ・中学生 265円/食 4,505円/月

⑤ 全20校の内、4校は自炊、16校は委託している。委託費は1校当たり2,000万円である。

⑥ 給食はご飯中心で、手作り、食器は強化磁気食器の使用を基本としている。

○ 「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

- ① 私立幼稚園で預かり保育を8時から18時まで行い、かつ土日以外で年間休日
が15日以内をクリアしたところへ通う園児の保護者に補助金を支給する。園児
は3歳以上が対象で、年間15.6万円補助する。
- ② 子育て支援センターを2箇所から中学校区に1つの8箇所に増設し、一時保育施
設は3箇所から7箇所に増設した。
- ③ 保育所や幼稚園の園庭開放の時間や曜日を拡大する。
- ④ 企業に対し、育児休暇を取りやすい環境整備に努めるよう、働きかける。

3) 課題

○ 全市立小中学校での美味しい給食の実施について

- ① 外国人が多く、全生徒個別対応しており、108項目のアレルギー対策が大変。
- ② エピペン、アナフィラキシーショックへの対応等、教職員研修を実施している
が、リスクが高い。

【所 感】

学校給食での取り組みですが、驚いたのは多くが「自校調理方式」をとっておられる事
でした。また、アレルギー対策として108項目にわたる対策も行われている。非常に
大変な取り組みと感じたところです。特にアレルギー食については行政がどこまでの取
組みをすべきなのか？リスクも踏まえ良く議論すべき問題点かと改めて感じるところ
です。

農業振興を兼ねての取り組みである「地産地消」これには、私自身も非常に関心を持
っている点であり、素晴らしい取り組みとして好感を覚えたところです。
都会でありながら、多くの農地も存在し元気で農業へ従事されている方々と協力しての
取り組みに共感を得たところです。（しかし、コスト的にどうなのか検討の余地はあるよ
うでした。）

自校調理方式・地産地消での取り組みへの説明では、財政力の強さを痛切に感じました。
多くの人に関わり、多くの時間が必要な施策のようです。

子育て応援幼稚園保護者補助金では、待機児童の無い小野市ではおかれた状況の差異が
あり、少しなじめない取組の様でありました。しかしながら、当小野市では子育てにお
ける一番優しい街として、育児助成への更なる取組（例えば、保育料無料化？）へと、
施策を広めていければと考えます。

小野市では、調理はセンター方式。そして、地産地消についての方法論を、又子育て

援助策としての取組みについて議論していく価値を再度認識し出来た視察でした。

【第3日】

兵庫県篠山市

人口：約4万4千人、面積：377.61Km²

≪視察項目≫

篠山市の観光行政について

≪視察内容≫

豊富な観光資源を有し、京阪神から約1時間の立地を生かした観光戦略
豊富な観光資源

文化的資源 篠山城跡周辺を含め伝統的建造物群保存地区が市内に2か所
車塚古墳 丹波焼

食資源 丹波篠山黒豆 丹波篠山山の芋 ポタン鍋

自然 多紀連山

催し 篠山デカンショ祭り（56回）、丹波焼陶器まつり（31回）など

観光施策のポイント

◎催し（大型催しの捉え方）

催しで観光客を集めるのは大切、しかし一時に集められる人数には限りある。

- 催しを、篠山の良さを知ってもらうきっかけと捉える。
- リピーター確保、食品の継続購入へつなげる事が重要。
- さらに、民間主催の小型イベントの実施回数を増やす。

◎滞在時間

京阪神からの観光コースとしては（篠山城周辺→竹田城→城崎温泉で宿泊）が典型的なパターンとなっており、滞在時間が短い。

→篠山城周辺だけでなく、他の観光地のアピールを強化し、市内での滞在時間延長を図る。

◎他地区との連携

丹波観光連携を行い、丹波地区で1泊2日の旅が提案できるよう取り組む。

赤穂浪士、小京都など、同様の歴史的背景を持つ地域との交流を行い、観光客の増加に努める。



【所 感】

篠山市は、徳川家康の命による天下普請によって築城された“篠山城”があり城下町として開けて来ている。その後、鉄道が敷設されず(現在は、福知山線が運行)、また大規模開発が無かった為、城下町の構成要素である城跡・武家地・町人地が大きく壊されることなく残っている。

しかし、人口減少と高齢化。無住家屋の増加や取り壊し、街並みの保存等が急務。

これらの地域の遺産を活かしての取組みにより、年間200万人を超える観光客を呼び込んでいる。(残念ながら9割が日帰り観光)

特産物振興では、丹波篠山黒豆・山の芋・丹波篠山枝豆・ポタン鍋・丹波焼・篠山城跡等々多くの資源が存在。

農家戸数において、約74%が兼業農家。これら兼業農家を中心に農家の減少が続いている。篠山市のように「丹波篠山黒豆」に代表するものがあるとしても、農業の維持の難しさが課題の様である。当小野市では、これらの様な一流の特産品が無い中農地の維持、振興をすることの難しさを感じたところです。又、逆に特産品が無い中取組む方法において、「農地」「元気な高齢者」を活かすことにより、新しい農業の振興へと取組んでいけるのではないかと、感じた視察でした。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

市民クラブ
高坂 純子

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

地区によって人数や地域的なものが随分と異なる為予算などの概要に開きができていた。4つの交付金を1つにする方向で考えている事も説明されていた。イベント1つにしてもコスト削減で工夫をされている。

NPOの方向はまだ出ていないが、自治会等が前例踏襲型が多く、温度差があるので、課題協議などで解決策を見いだしていきたいとも言われていた。地区によってそれぞれにテーマ・スローガンが決めてあり、情報誌の発行にも力を入れている部分は感心した。

なかなか難しい課題だが、まちづくり協議会と既存の自治会が連携する事で、活発な事業も行えると感じた。若い人たちをどう取り込むか！同じ問題を持つ小野市としても 参考資料を基に考えていきたい。

【第2日】

愛知県小牧市

《視察項目》

認知症見守りネットワークについて

《所感等》

認知症サポーターは 35 回講座で 1,300 人が誕生しているが、今後の持続が大切である。子どもに対するサポーター制度は学校へお願いしている。見守りネットワークの登録は、網の目をいかに細かくしていくかという事なので、とにかく登録してくださいとお願いしているようだ。現状としては、家族が近所を捜し、登録の人が気に留め、最後は警察へ連絡するので、メールで知らせるのも月 1～2 回である。

“近所へ「うちの家族は認知症ですので宜しくお願いします。」と声に出して言う事によって、近所の人々が助けてくれることになる。知られたくないのは山々だが、言っておく方が格段に違う” この言葉が特に印象に残った。

【第 3 日】

大阪府箕面市

《視察項目》

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

《所感等》

手作りを基本としている。アレルギー対応ができていて、管理栄養士も各学校に置く。食材が取れすぎて同じ献立が続くそうなら、3 日以内にメニューを変更して保護者に PC などでお知らせする。等々細かい部分まで行き届いて素晴らしいと思う。センター方式の小野市とは形態が違うので比べにくいとは思ったが、農業を支える為の地産地消は学ぶべき点が多かった。

《所感等》

幼稚園保育園に私立と市立があり、待機児童無しの小野市とは異なるが、補助金受給終了後の児童の動向調査を行った場合、転居も無く小学校へ通っている統計を聞き、子育てしやすい箕面市を前面に出されている。人口も増えているのがよくわかる。

【第 3 日】

兵庫県篠山市

《視察項目》

篠山市の観光行政について

《所感等》

世界の皆さんこんにちは」と議長が挨拶をされたが、世界のオンリーワンを目指しているそうだ。中心市街地活性化については、(国は人口増・市は空き店舗を利用したの緩やかな住宅) と方向性が違うので取り組みは行わないそうだ。

若い店主達が商店街をいきいきとする為には。御用聞きを行っては何と話が出ているようだ。篠山に住む店主で盛り上げて欲しいそうだ。住んでいると良さがわからない事に気付かされて 観光に関心を示す市民、住む事に誇りを持つ市民が増えている事は素晴らしいと感じた。身近な近隣市、通り過ぎるだけでなく滞在型への観光が課題のようだ。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

市民クラブ
山本 悟 朗

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

まちづくり協議会がコミセンの運営をおこなうことに新鮮さを感じました。

小野市での展開を考えた場合、例えば来住地区をモデルとして、コミセンの館長は代表区長、事務職に市職員を配置するような形がとれないか、前向きに考えをまとめてみたい。

【第2日】

愛知県小牧市

《視察項目》

認知症見守りネットワークについて

《所感等》

認知症見守り隊について、登録者の数が増えることは安心につながると考えます。

現実には、徘徊不明者について家族から警察等に連絡がはいるのは、家族だけでは探せないと判断した夜間になることが多いと考えられ、搜索も困難になっています。

徘徊者が町なかにはいた場合には、見守り隊による発見が期待できることから、家族・友人・警察等は、より危険な場所（山中・河川）に捜索の重点をおくことができると考えられます

【第3日】

大阪府箕面市

≪視察項目≫

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

≪所感等≫

子育て応援幼稚園保護者補助金について強い共感を覚えました。

幼保一元化の前提として、

◎未就学の4歳児、5歳児については、等しく幼児教育をおこなう必要がある。

◎保育に欠ける子については保育をおこなう必要がある

この2点を明確に実施する方法であると考えます。

小野市においては、時代的背景から保育園の数が異常に多く、ともすれば、保育に欠けるとは言い難い環境の児童も保育園に入らざるをえない状況にあります。

今後の取り組みとしては、教育に必要となる部分と保育にかかる部分を明確に分けた上で、教育に関する部分の無償化、保育にかかる部分の費用低減化を考えたい。

【第3日】

兵庫県篠山市

≪視察項目≫

篠山市の観光行政について

≪所感等≫

観光資源については、住人が当たり前前に考えている物や風景が、他の場所から見るととても珍しいものであったりする。「篠山みたいに資源がないから」ではなく、小野のよさを再発見し、観光誘致に努めたい。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

市民クラブ
山中 修己

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

宿泊先の「クレオール湖東」は琵琶湖のすぐ東と思っていたが、かなり東の人里離れた高台にあり、ホテルから琵琶湖は見えなかった。民間の施設で、月曜だというのに、宿泊客はかなり入り賑わっていた。値段のせいかな。

14地区がそれぞれ補助金をもらって、独自に活動されており、小野市と似たような運営をされている。種類の異なる補助金が3種類あり、1本化する方向で検討中とのこと。益々小野市と似てくるが、内容でユニークなところがあった。例えば、草木が生い茂り、大量のごみが捨てられた森を、自然と触れ合い交流の森にした。とか昭和20年～35年頃の地区の心象絵図を描き、地域の記録として残した。などは面白い試みである。

【第2日】

愛知県小牧市

《視察項目》

認知症見守りネットワークについて

《所感等》

認知症サポーターの養成は、1時間の講習で行っており、平成25年度には目標値950人に対し、7,600人強の人数が確保できている。ただ、さらにグレートアップしたキャラバン・メイト、認知症コーディネイトの養成ははかどっていないのは悩みのようだ。

認知症を市民が正しく理解し(認知症サポーターの養成)、メール会員になってもらって、広く地域で見守っていこうというストーリーで活動されていることはよく理解できた。家族が認知症患者をオープンにすることが肝要だとのこと。今後は広域(近隣市)の連携を図っていききたいとっておられたのは重要だと感じた。

いただいた封筒に「ようこそ！こまきへ 兵庫県 小野市議会 市民クラブ、公明党様」と印字されていたのが嬉しかった。参考にしたい。

【第3日】

大阪府箕面市

《視察項目》

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

《所感等》

箕面市は現在人口が増加しており、羨ましい限りである。北大阪急行が近々箕面まで延伸するとのことで、通常とは違う悩みを抱えている。

今回テーマである私立幼稚園へ通園する保護者への援助、学校給食のアレルギー等の完全対策などさらに人口増の対応をされており、状況が異なる当市へそのまま採用するのは、難しいと感じた。ただ、70%ある緑を大切にするという考えの下、農家を育成して、地産地消を奨励し、農業公社をつくり、若者に遊休農地で野菜をつくらせ、全量学校給食に使用するといった施策や、強化磁気食器を使って、ご飯を中心に手作りで行っている給食など、きめ細かな配慮をしているところは参考にすべきであると感じた。

【第3日】

兵庫県篠山市

《視察項目》

篠山市の観光行政について

《所感等》

京阪神から1時間の立地は小野市とよく似通っている。篠山市は丹波の黒豆、ポタン鍋、篠山デカンショ祭り、立杭焼等々全国的にも名の知られているものが沢山あり、観光の観点からすると、小野市より有利に感じる。

小野市としては、ホテルを中心とし、滞在時間を長く保てる工夫が必要と感じた。例えば、きらら通り周辺を電柱の地中化等でもっと美しくし、サイクリングロードを併設し、金つるべ城後とKDDI跡地を結ぶというようなこともいいのでは。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

市民クラブ
藤本 修造

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

しかし、コミュニティセンターの指定管理をしたことにより、問題点も……

- ・ 指定管理は収益事業となるため法人税の納付義務が発生
- ・ 源泉徴収税の納付義務
- ・ 消費税の納付義務
- ・ 複式簿記による会計処理
- ・ 指定管理に手間をとられ、従来のまちづくりの活動が十分にできなくなる。

まちづくり協議会の活動による効果

- ・ 行政では手の届かない課題に対しても、課題としてとらえて対応ができる。
- ・ 地域の一体感・地域愛が醸成される。
- ・ 地域独自の個性が失われず、むしろ磨きがかかっている。
- ・ まちづくり協議会が指定管理をすることで、それぞれの地域らしい
- ・ ミュニティセンターとなっている。

まちづくり協議会の課題

- ・若年層や女性の参加が少ない
- ・平均年齢の高齢化
- ・役員の後継者がなかなか見つからない
- ・自治会連合会をはじめとした既存団体等との連携
- ・頑張っても活動しても、まちづくり協議会の認知度がなかなか上がらない。
- ・コミュニティセンターの指定管理以降、「会計・税務・労務などが複雑化
- ・法人税について、実費弁償方式をとっているため、利益を生み出せない。
利益を出して貯めていくためには、実費弁償方式をやめなければならない。
そうすると、法人税を払うことになり、まちづくりに充てられる費用が
減ってしまう。というジレンマに陥る。

と、上記のような問題点や課題があります。

しかし我が小野市でも、最終的な着地点は地域の自立、すなわち市民力・地域力の醸成であります。市民の意識を変えるだけでも、相当の時間が必要と感じています。しかし市民に理解していただける環境整備とともに、諦めることなく市民との対話を続けなければならないと考えています。

【第2日】

愛知県小牧市

《視察項目》

認知症見守りネットワークについて

《所感等》

「認知症」を発症せずに歳を重ねたい。誰もが思い考える老後最大の心配事だと思います。

小野市には平成16年から、地域づくり協議会が発足しています。発足後の各地域の活動を総括しますと、自己責任において自己決定する。地域力の醸成にはおおきな貢献がある。しかし、活動内容を見てみると概ね6地区が同じ内容のように思える。

環境整備（花の植栽・防草シート）。安全・安人（登校時・下校時の児童の見守り）スポーツ（バレー・アジャタ大会）等。

今までの活動以外に「お年寄りを見守る」事業が、地域づくり協議会に誕生する小野市でありたいと願っています。

【第3日】

大阪府箕面市

《視察項目》

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

《所感等》

箕面の学校給食は、箕面の農家の方が支えています。

箕面市では、昨年の2学期から全市立中学校で学校給食を開始しました。学校給食の食材には、市内の農家のかたが作った新鮮で安心な野菜が使われ、「地産地消」を進めています。箕面市では、学校給食を通じて、栄養やバランスのよい食事の取り方を教えるとともに、子どもたちが地元の農家の人と触れ合っ​​て食の大切さを学べるよう「食育」に取り組んでいます。

小野市の農業振興のひとつの実施例として非常に参考になりました。人口が増え続ける箕面市、路線価格の高い箕面市、この環境下でありますので農産物の供給が可能なのかとも思いました。

【第3日】

兵庫県篠山市

≪視察項目≫

篠山市の観光行政について

≪所感等≫

篠山市の概要について

篠山市は京阪神から1時間という距離にありながら、丹波の森といわれる豊かな自然と篠山盆地に広がり、篠山城跡や城下町などの日本の原風景とも言えます。また、篠山城跡の南西に位置する篠山市今田町では山麓の県道に沿った約2 Kmの範囲に窯元が集積し、独特の伝統文化を今に伝え、平安時代末期から今日までの8百年の伝統の灯を絶やすことなく人々を魅了する陶器を生み出しています。

今回の視察は3日間で視察研修先4か所と決定した。初めての経験でもありました。

- 研修内容は、
- 1) 観光戦略について
 - 2) 観光施策について
 - 3) 特産物振興について

特産物 丹波篠山黒豆、丹波篠山山の芋、丹波篠山黒枝豆、
丹波篠山牛、ポタン鍋

伝統工芸 丹波焼

旧跡 篠山城跡、大書院、歴史美術館、車塚古墳

温泉 こんだ薬師温泉ぬくもりの郷、草山温泉、籠坊温泉

自然 多紀連山

催し 丹波篠山さくらまつり（4月）、篠山春日能（4月）丹波篠山山開き（5月）、大国寺と茶まつり（6月）、丹波篠山デカンショ祭（8月）、丹波篠山味まつり（10月）、丹波焼陶器まつり（10月）
いのしし祭（1月） 篠山の四季折々、1年間を通じて集客できる観光地のよう​​に感じました。

そこが篠山市の強みでしょう。その上強烈な言葉として、デカンショ、ポタン鍋、黒豆がある。これも最大の戦略になるのでしょう。

私は丹波篠山と言えば「おの恋大賞」受賞チーム、「丹波篠山楽空間」が思い浮かびます。今我が小野市でも強烈にシティセールスを仕掛け​​中​​であります。市議会議員として。私が仕掛けた結果は如何に？楽しみであります。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

市民クラブ
小林 千津子

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

小野市で行っている地域づくりへの補助事業と似ていると感じました。地域により温度差があり当市の課題も同じことを感じています。

小野市で地域づくり協議会に指定管理をお願いした場合は、地域の一体感が生まれ、地域力が着くと考えますが、指定管理は収益事業と成り事務的にも手間となり活動が十分出来なくなると考えます。小野市では地域の絆づくりを主に考えて行事が行われているように思いますが、幅広い世代の人に参加してもらえるような事業の展開が出来ないか、後継者づくりがどことも一番の悩みと考えます。

【第2日】

愛知県小牧市

《視察項目》

認知症見守りネットワークについて

《所感等》

高齢者が増える中、これからは認知症の方も増加してきます。家族に出来る事には限界があります。隣、近所の方はもちろん地域で見守りが出来、住みなれた我が家で穏やかに終末を迎える事を誰もが願う事です。

現実には、徘徊が多くなり家族や地域の方々に迷惑がかかる事を懸念して、施設に入所する事となります。高齢者に元気で暮らして頂く対策として小牧市も色々な対策を取られています。小野市でも同じ事をしてはいますが参加されない方が多いと聞きます。

他人の事と考えず地域で見守り、助け合って共に暮らせる事が出来る町としたいと願います。ここでも地域力が試されます。

【第3日】

大阪府箕面市

《視察項目》

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

《所感等》

全校完全給食で全て「自校調理方式」で行っておられ、地産地消を積極的に取り入れ現在16%、50%を目標として農業振興に役立たせているとのことでした。

野菜の収穫状況に合わせて献立を変更し、調理員も協力しています、と話されたことに共感を覚えました。

人口減少の中、箕面市にあっては現在も増加しているという現状の中、若年層が住みやすい、子育てがし易い要因が多いと考えます。保育や教育、又給食に関して教えられる事が多い視察でした。

【第3日】

兵庫県篠山市

《視察項目》

篠山市の観光行政について

《所感等》

とても身近な篠山市で、隣の市から見ても観光資源がたくさん有るように思いますが住人は余り感じておられないように思いました。

当市でもこんな事があるのではないかと考えます。今あるものを有効に使い、観光と地域資源を生かした誘致が出来るように、小野市で考えていきたいとおもいます。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

市民クラブ
前田 光 教

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

東近江市の場合、合併により効率的な行政運営が可能となった反面、各地区の個性や伝統文化が失われるのではないかという不安、そして少子高齢化による十分な行政サービスの不安などから、市民主体のまちづくり自治システムとして「まちづくり協議会」が設立されています。そして、14地区のコミセンを協議会が指定管理者として運営している取り組みは、行政としては思い切った知り組であると思います。

多くのメリットとそれらの裏側に今後の課題があり、画一的横並びの運営形態は不可能であり、地方分権時代における地方自治体の取り組みが、今やその地域にも求められているものとして認識しました。

今回の視察で、提案型の交付金（支援金制度）等は、今後の小野市でも考えられるものとして参考にしたいと思います。

【第2日】

愛知県小牧市

≪視察項目≫

認知症見守りネットワークについて

≪所感等≫

「認知症はなぜなるのか？認知症にならないための方法は？」等々、認知症については自分自身も含め、多くの考えと意見があると思います。そこで、今回認知症への先進的取り組み事例を視察するため、小牧市にお世話になりました。

小牧市の場合は、認知症になっても安心して暮らせるまちの創造を図り、様々な取り組みをされており、推測ですが、今後は認知症にならないための予防事業も展開されるものと感じました。

私感ではありますが、認知症は、会話や対話、外出が少なくなることによってその症状が現れるように感じています。小野市においては、土地柄等を鑑みて、予防事業の遂行を願うところです。一日、ひと声運動・・・等々・・・。

【第3日】

大阪府箕面市

≪視察項目≫

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

≪所感等≫

現在、小野市では5000食に及ぶセンター方式の給食センター（規模として全国8番目・県下最大）が計画されています。今回の視察先である箕面市は、自校法式で給食を提供されており、食材等の地産供給や温かいものを提供できるところから考えると何の文句もでない状況であると感じます。

しかし、食材等の経費だけを見ると、問題も感じませんが、そこに係る人件費等を含んで考えるとかなりの費用抛出が必要であるとも考えられます。児童数やその配達距離等、様々な条件を考慮し、小野市ではセンター方式を選択していますが、安全な食材の供給、地産供給、そして食育等はこれからも検討を重ねていく必要はあると感じています。加えて、108項目に渡るアレルギー対応をされている箕面市ではありますが、食育という観点では様々な考えがあるものと思いますが、私自身としてはアレルギーに対し自らが対応できる事を学ぶのも食育であると認識しています。

何れにしても子育てにかける箕面市の取り組みには感銘を致します。今後の小野市でも自信を持った子育てができる自治体として存在したいものです。

【第3日】

兵庫県篠山市

≪視察項目≫

篠山市の観光行政について

≪所感等≫

私にとって篠山市は、加東市の延長線に位置しており、身近に感じる自治体であります。しかし、概要でも記しているように文化、経済圏からすると異なりは感じずに

いられません。そんな、篠山市の観光戦略を学ばせて頂き、県が主導する枠組みでの観光戦略ではなく、個人的には、小野市と篠山市といった戦略を模索するための視察でもありました。結果を見出すことはできませんでしたが、「まつり」や「農産物」等のキーワードを基に今後も検討を重ね、活力ある自治体を追及したいと思います。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

公明党
川名善三

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成26年11月10日(月)～平成26年11月12日(水)

2 視察メンバー 川名善三・竹内修(市民クラブ7名と合同)

3 視察先及び調査内容

- (1) 滋賀県東近江市(人口:約11万6千人、面積:388.58Km²)
 - ・指定管理者制度(コミセンまちづくり協議会への)について
- (2) 愛知県小牧市(人口:約15万3千人、面積:62.82Km²)
 - 認知症見守りネットワークについて
- (3) 大阪府箕面市(人口:約13万3千人、面積:47.84Km²)
 - ・全市立小中学校での美味しい給食の実施について
 - ・「子育て応援幼稚園保護者補助金」について
- (4) 兵庫県篠山市(人口:約4万4千人、面積:377.61Km²)
 - ・篠山市の観光行政について

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

人口：約11万6千人、面積：388.58K²

《視察項目》

指定管理者制度（コミセンまちづくり協議会への）について



《視察内容》

1) 取組の経緯

合併により効率的な行政運営が可能となったが、市民が自主的に参加し、地域課題を解決し、各地域の個性を生かした町づくりを行うため、各地区で「まちづくり協議会」が組織された。

平成26年4月1日「東近江市協働のまちづくり条例」を施行し、「まちづくり協議会」の位置づけを明確化した。



2) 支援制度

- ・ 交付金・地域活動支援補助金・地域活性化補助金・職員の支援体制

3) まちづくり協議会へ指定管理を委託するメリット

- ・ 地域の施設→愛情を持って管理して貰える
- ・ 施設の予約や利用者との調整。
- ・ 単なる業務委託とは違い、仕様書以上の管理、美化が期待できる
- ・ 利用者からの苦情トラブルの処理
- ・ それぞれの地域らしいコミュニティセンターとなっている



4) まちづくり協議会の課題

- ・ 若年層や女性の参加が少ない
- ・ 高齢化
- ・ 自治会連合会をはじめとした既存団体等との連携
- ・ 認知度の低迷
- ・ 事務処理の複雑化→実費弁償方式をやめる
- ・ 協働課と生涯学習課との2つの窓口に分かれわかりにくく、行政側も連携が取りづらい。

≪視察項目≫

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

≪所感等≫

まちづくり協議会（小野市では地域づくり協議会に相当）への指定管理は今後の地域づくりの方向性を見出すものである。条例の制定やすべての協議会を指定管理とし、特に一部では一般社団法人の設立まで至るなど、その徹底した取組みに大いなる熱意を感じた。

【第2日】

愛知県小牧市

人口：約15万3千人、面積：62.82Km²

≪視察項目≫

認知症見守りネットワークについて

≪視察内容≫

1) 取組の経緯

今後の高齢化の進展により支援を必要とする認知症高齢者の数も増加することが見込まれることから、地或における認知症への理解を深め、地或で支える包括的な支援体制を構築することを目的として、「認知症見守りネットワーク構築事業」を整備することとし。平成22年度に愛知県より委託を受け、「地域資源活用モデル事業」として実施した。



2) 具体的な取組みについて

①認知症サポーター養成講座

認知症の正しい理解とその家族を見守る応援者（認知症サポーター）を養成する研修

②キャラバン・メイト養成研修

認知症サポーター養成講座の講師（キャラバ・メイト）を養成する為、介護相談員、介護従事者、地域包括支援センター職員などを対象とした研修

③認知症コーディネーター養成研修

専門的な知識の習得、及び医療、介護などの連携の橋渡し役となる人材を養成する為、医師会、歯科医師会、薬剤師会会員及び居宅介護支援事業所職員等を対象とした研修

④認知症地域資源マップの作成

⑤啓発グッズの作成

認知症に対する理解を深めるため、ステッカーやのぼり旗の作成 激励



⑥徘徊搜索模擬訓練

電話、FAX、メール等を活用、認知症高齢者の行方不明を想定した模擬訓練を実施

⑦認知症見守り隊の養成

徘徊不明案件が発生した場合の搜索・早期発見を支援する目的でサポーターから登録者（事業所）を募集。事案が発生し搜索願いが出された場合は家族の同意の上市内の各地域包括支援センターから登録者（登録事業所）へFAXやメールで徘徊者の情報を提供する。



《所感等》

認知症見守り隊は、各組織間の連携を具体的なものとし、徘徊搜索模擬訓練の実施など、市民への意識啓発面の点からも効果が期待できる。認知症の予防と合せ、認知症への更なる理解と周囲への意識啓発は、地道で持続的な取組みを進めることが重要と感じた。

【第3日】

大阪府箕面市

人口：約13万3千人、面積：47.84 Km²

《視察項目》

- 1) 全市立小中学校での美味しい給食の実施について
- 2) 「子育て応援幼稚園保護者補助金」について



《視察内容》

1) 取り組みの経緯

①全市立小中学校での美味しい給食の実施について

箕面市は地産地消を積極的に取り組み、学校給食に採用することで、行政課題のひとつである農業振興を図っている。小学校12校、小中一貫校2校、中学校6校あり、平成25年9月より中学校を給食にしたことにより、全校完全給食になった。全て「自校調理方式」で行っている。

②「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

箕面市は人口が増えている。待機児童が今年度急増し、前年比1.5倍になった。市は「待機児童0プラン」を策定し、平成23年度に保育所を2園増設したが、多様なニーズに対応す

子どもの保育、みんなどうやって選んでる?

費用や保育時間！ 保育所か？ 幼稚園か？ 今から知って比べて選ぶ！
こんなにスゴイ！ 箕面市の私立幼稚園児保護者補助金のご案内

私立幼稚園	公立幼稚園
月額費用 約23,000円	月額費用 約10,000円
私立幼稚園保護者補助金 13,000円	公立幼稚園保護者補助金 10,000円
実質月額費用 約10,000円	公立幼稚園費用 約10,000円

私立幼稚園のメリット：保育時間長、食生活が豊か、先生との関係が深い、園庭が広い、お迎えが早い、お迎えの受け皿は、保育所がほとんど、預け先が少ない、お迎えの時間や場所が柔軟、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い。

公立幼稚園のメリット：費用が安い、お迎えの時間や場所が柔軟、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い。

でもちょっと待って！ほんとに保育所が待てる？

選んでる標準費のかたにも幼稚園を選びやすくするため、私立幼稚園の支援を拡大。お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い、お迎えの時間帯が広い。

るため、保育所以外の子育ての選択肢を拡充するに至った。

2) 具体的取り組みについて

①全市立小中学校での美味しい給食の実施について

・アレルギー対策…個別対応を行っており、108項目除去項目ある。(国は9項目となっており、項目削減に取り組んでいる。) 対象者は359人である。

②エピペン所持者…対象者は58人で、年々多くなっている。

③「箕面農業公社」をつくり、若者に遊休農地で野菜をつくらせ、全量給食に使っている。現行地産地消率は16% (目標50%)である。公社はJAとの関わりはない。

④1人当たり給食単価は次のとおり

- ・小学生低学年 209円/食 3,553円/月
- ・小学生中学年 213円/食 3,621円/月
- ・小学生高学年 216円/食 3,672円/月
- ・中学生 265円/食 4,505円/月

⑤全20校の内、4校は自炊、16校は委託している。委託費は1校当たり2,000万円である。

⑥給食はご飯中心で、手作り、食器は強化磁器食器の使用を基本としている。

⑦「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

- ・私立幼稚園で預かり保育を8時から18時まで行い、かつ土日以外で年間休日が15日以内をクリアしたところへ通う園児の保護者に補助金を支給する。園児は3歳以上が対象で、年間15.6万円補助する。
- ・子育て支援センターを2箇所から中学校区に1つの8箇所に増設し、一時保育施設は3箇所から7箇所に増設した。
- ・保育所や幼稚園の園庭開放の時間や曜日を拡大する。
- ・企業に対し、育児休暇を取り易い環境整備に努めるよう働きかける。



3) 課題

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

①外国人が多く、全生徒個別対応しており、108項目のアレルギー対策が大変

②エピペン、アナフィラキシーショックへの対応等、教職員研修を実施しているが、リスクが高い。

《所感等》

学校給食について、ある意味理想とされる自校調理方式を採用しつつ、108項目ものアレルギー対応も行なっている。コスト面が気になる所であるが、「センター方式を行なったことがないので比較できないが、大きな差は無いとの認識である。」とのことであった。自校調理とセンター調理については、議論はあるが、それぞれのメリットを最大限に生かすことが肝要と思われる。

【第3日】

兵庫県篠山市

人口：約4万4千人、面積：377.61K㎡

≪視察項目≫

篠山市の観光行政について

≪視察内容≫

豊富な観光資源を有し、京阪神から約1時間の立地を生かした観光戦略

1) 豊富な観光資源

- ・ 文化的資源 篠山城跡周辺を含め伝統的建造物群保存地区が市内に2か所
車塚古墳 丹波焼
- ・ 食資源 丹波篠山黒豆 丹波篠山山の芋 ポタン鍋
- ・ 自然 多紀連山
- ・ 催事 篠山デカンショ祭り（56回）、丹波焼陶器まつり（31回）など

2) 観光施策のポイント

①催事（大型催しの捉え方）

催しで観光客を集めるのは大切、しかし一時に集められる人数には限りある。

- 催しを、篠山の良さを知ってもらうきっかけと捉える。
- リピーター確保、食品の継続購入へつなげる事が重要。
- さらに、民間主催の小型イベントの実施回数を増やす。

②滞在時間

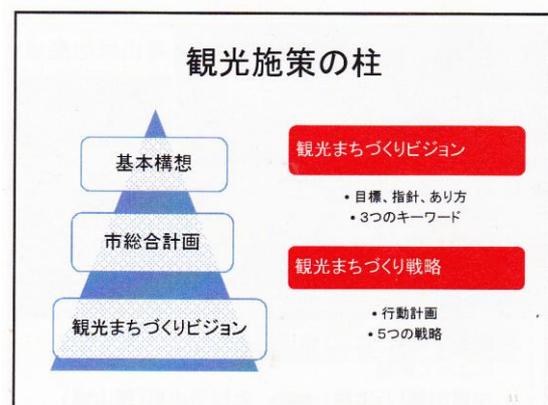
京阪神からの観光コースとしては（篠山城周辺→竹田城→城崎温泉で宿泊）が典型的なパターンとなっており、滞在時間が短い。

→篠山城周辺だけでなく、他の観光地のアピールを強化し、市内での滞在時間延長を図る。

③他地区との連携

丹波観光連携を行い、丹波地区で1泊2日の旅が提案できるよう取り組む。

赤穂浪士、小京都など、同様の歴史的背景を持つ地域との交流を行い、観光客の増加に努める。



《所感等》

小野市に比べ全国的な知名度を誇る篠山市であるが、滞在時間の短さや催事に依存した集客など、課題も多いことに改めて観光戦略の難しさを実感した。ネームバリューに依存することなく、関係団体や市当局の熱意がどれだけ市民意識の向上に寄与するかが共通の課題であろうと感じた。

平成26年11月25日

小野市議会議長 様

公明党
竹内 修

行政視察報告書

先般、実施しました会派合同行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 (略)

2 視察メンバー (略)

3 視察先及び調査内容 (略)

4 調査結果

【第1日】

滋賀県東近江市

《視察項目》

(コミセンまちづくり協議会への) 指定管理者制度について

《所感等》

まちづくり協議会で、コミセン指定管理の総数は、平成26年四月現在で14地区になっています。当初の、合併により沢山のメリットを感じていた人々が、全国が均一化した、合併に疑念を抱き、ふるさとの正しい姿を思い描き、挑戦したものと思う。

理由はともあれ、自分達の選択が、単に効率化という言葉の陰に隠れて、故郷らしさに思いを寄せています。それは、古き時代より培われてきた自分達の「まちらしさ」を表現することではないでしょうか。一人ひとりの住民が、集まって都市が形成される。

多くの住民が集まると、求める都市の形は、住民の数だけ理想形があります。その数だけ都市を形作るとは、当然不可能になるので、効率化という手法に寄らなければ、満足度は上がらなくなり、意見の集約をしなければ資本の投下も無意味なことになる。

地方自治体の合併にはそれだけ危険な問題が内包されていると思います。

東近江市の、指定管理の手法は、最もスタンダードともいえる住民の総体による、自由な「まちらしさ」の想像であると思います。

社会に存在する色々な問題、ゴミ、高齢化、少子化、放置された里山、人同士の関係の希薄さ、核家族化社会における子育ての孤立、歴史ある又は歴史を感じるふるさとの山や川、社会資本整備における公園、コミュニティの創出の手法、全てにおいて住民による選択がなされる。これが重要ではないかと考えさせられる。

従来のように、行政が主体性を持って運営をするのも、悪いとは思わないが、どこか人任せになって、責任追及が役割になるのは、本末転倒ではないだろうか。

小野市について、どう未来を切り開いていくのか、大変に悩ましいと思う。

【第2日】

愛知県小牧市

≪視察項目≫

認知症見守りネットワークについて

≪所感等≫

担当者は、当時の計画から立ち上げた方ではなく、引き継がれた職員でした。小牧市では、地域性に似合わず見守りをしていく・・・という感じがしたのが実感です。

一人一人の顔がわかる地域では、比較的見守りはしやすい。あえて、15万人都市が挑戦しようというのは素晴らしい。まして、認知症のお年寄りの徘徊を姿かたち、服装、身体的特徴等で、何とか食い止めようとされ、ネットワークで連携を強くしているのは素晴らしい。住民の方が、徘徊をしている人に寄り添い、警戒心を抱かせずに見守りをして、問題解決する。上手くいくことばかりではないにしても、訓練、研修を経て素晴らしい地域ができて行くと思う。県より促されての事業であるにしても、素晴らしい取り組みであると共に、地域の人同士の交流を密にする、一石三鳥の取り組みであると思う。残念なのは、県の予算が途絶え、行く末は必ず役に立ち、今からのコミュニティをいい方向に持っていくツールになるという発想が欠けているのが何とも残念です。

【第3日】

大阪府箕面市

≪視察項目≫

全市立小中学校での美味しい給食の実施について

「子育て応援幼稚園保護者補助金」について

≪所感等≫

美味しい給食の取り組みについての自治体の取り組みは、大阪の中にあっては大変ではないかと思う。府内の給食の実施率は大変低く、維新の党の政策の目玉にも完全実施が挙げられているように、なかなか難しいのが実感です。それでもJAを使わずに地産地消を実施して、調理も自校方式で賄っている。そもそもJAを使うのは、品揃えをするため、価格を抑えて量を確保するためです。ゆえに価格は膨大になると思う。

また、センター方式でなく自校方式にするのは、スケールメリットを排除し食材の量の少なさに対応すること、苦肉の策である。どちらも予算額には際限がない。

さらに、アレルギー対応食である、通常のアレルギー除去食対応は各自治体により対

応は異なるが、多くの場合5～9項目である。これだけ対応すると専門の職員が何人いるのか、・・・めまいがする思いである。

学校給食で普段の栄養を賄うというように言われている昨今だが、食べることは、まさに、生きること。やはり自分の食べるものが安全かそうでないかという感覚も必要ではないだろうか。それを教えずにエピペンを持たすのはどうなのか、大変悩ましい。

同様に保育、待機児童の解消も多く補助金を支出しています。ベッドタウン化していくのはこういうことかと理解しました。民間の幼稚園にしても保育の延長をしないと市民のニーズに合わないのかと驚きました。今、国では女性の働き方に関して、色々な提言がなされています。働く女性が、何の心配もなく子育てできる。こういう環境を作るのは、保育だけではないのではと、ふと思いました。育児に対する休養も取り組みたい。

【第3日】

兵庫県篠山市

≪視察項目≫

篠山市の観光行政について

≪所感等≫

ここでも担当者が、事業の継続で立案時の事は、詳しくはわからないとのことであるが、篠山市の観光が盛んで人の往来が絶え間なくあるのであれば構わないと思うが、そんなことはないと思う。

私達が知っている篠山市と、何ら違いが無いのがいい証拠ではなからうか。何処でも言っていることではあるのだが、一度地域を離れて冷静に向き合って、強みを知ってほしい。残念なことに山や川、地形、他の地域との地図上の位置。

どれだけ変わった地域にあるのかを説明していただいていない。デカンショ街道一本でどうとでも広げられると思う。それだけ可能性がある資源が眠っていると思う。